

授業科目 発達障害作業療法評価学演習

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【＜概要＞又は＜一般目標：GLO＞】
発達障害に対する作業療法の評価を遂行するために必要な正常発達に関する基礎知識と、発達障害を評価する検査・観察に関する知識を身につけると共に、基礎的な評価の技術を身につける

【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBO＞】

1. 対象児及びその家族と接するときに必要な注意点を列挙できる
2. 学生を対象に発達全般の評価を模擬的に実施できる
3. 姿勢・運動の評価を人形などを対象に模擬的に実施できる
4. 微細運動の発達評価を学生などを対象に模擬的に実施できる（観察を含む）
5. 知覚・認知の発達評価を学生などを対象に模擬的に実施できる
6. 心理社会的能力の発達評価を学生などを対象に模擬的に実施できる
7. 日常生活活動・適応行動の発達評価をVTRなどを利用して模擬的に実施できる
8. 正常発達に関する知識をもとに仮説を立て、平均的な発達の子どもの様子を観察し、報告できる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション、子ども・保護者との接し方	1	講義
2	発達全般の検査（デンバー、遠城寺、KIDS等）①	2	演習・実技
3	" ②	"	"
4	姿勢・運動発達の評価①：ミラニ＝コンパレッティなど	3	"
5	" ②：NDTなど	"	実技テスト(1)
6	微細運動発達評価（発達検査項目から抜粋）①	4	演習・実技
7	" ②	"	"
8	知覚・認知発達の評価（フロスティグなど）①	5	"
9	" （グッドイナフなど）②	"	"
10	心理社会的能力の評価（ABS適応行動尺度など）	6	実技テスト(2)
11	日常生活活動・適応行動の評価〔遊びを含む〕①	7	演習・実技
12	" (2)	"	講義
13	平均的な児童の観察と評価①	8	"
14	" ②	"	"

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	作業療法学全書第3巻『作業療法評価学』、日本作業療法士協会（編）、協同医書出版社、1999、¥3,200			
	作業療法学全書第6巻『発達障害』、日本作業療法士協会（編）、協同医書出版社、1999、¥3,400			
参考書	『発達障害と作業療法〔基礎編〕』、岩崎清隆、三輪書店、2001、¥3,300			
その他の資料				

【評価方法】 出席：10%、積極的参加：20%、 実技テスト：30%、課題：40%	【履修上の留意点】 原則として1年以内に履修する、4学期制小児科ナース単位で修得している場合は 評価学の講義内容を実際に体験する科目であることを意識し、欠席は慎むこと
---	---